

令和6年8月13日	
所 属	情報指令課
所属長	西山 善規
電 話	06-6481-3968

令和6年上半期火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和6年上半期中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和6年1月1日（月）～令和6年6月30日（日）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和6年上半期火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり

以 上

令和6年上半期火災概要

火災の発生状況

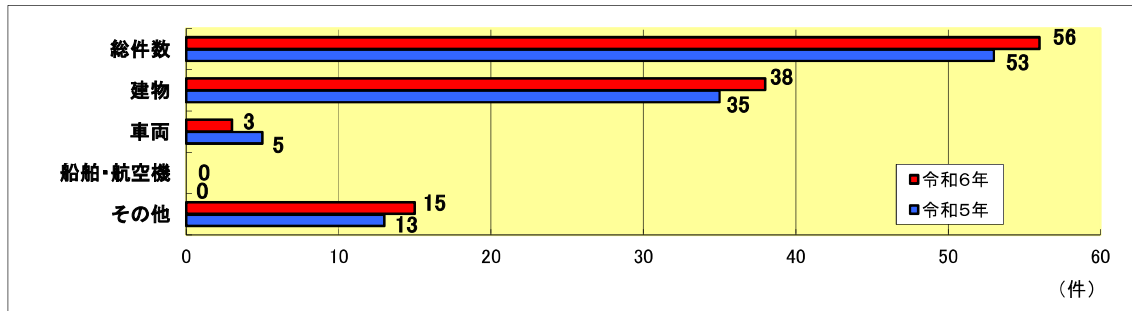
- 令和6年上半期の火災件数は56件で、焼損床面積は689㎡、損害額は6,296万8千円、死者2人、負傷者9人となりました。

令和6年	
件数	56件
焼損床面積	689㎡
損害額	6,296万8千円
死者	2人
負傷者	9人

令和5年	
件数	53件
焼損床面積	251㎡
損害額	2,731万3千円
死者	2人
負傷者	6人

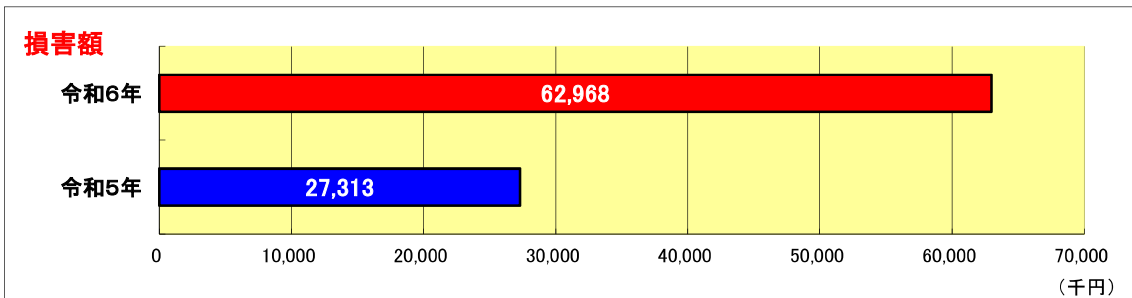
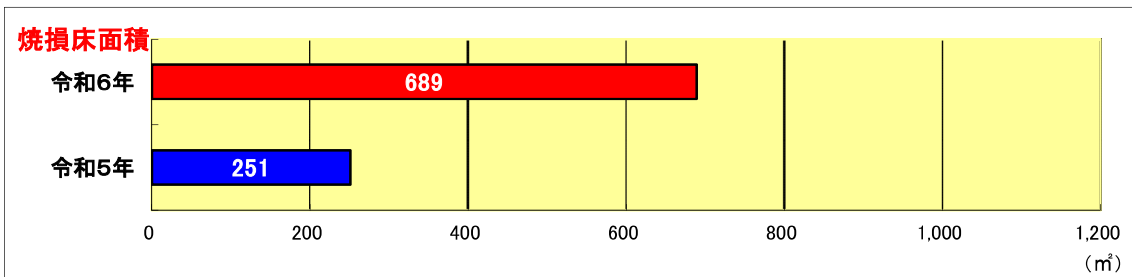
出火件数

- 出火件数は、前年の53件から3件増加し、56件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が38件で3件増加、「車両火災」が3件で2件減少、船舶火災」、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が15件で2件増加しました。



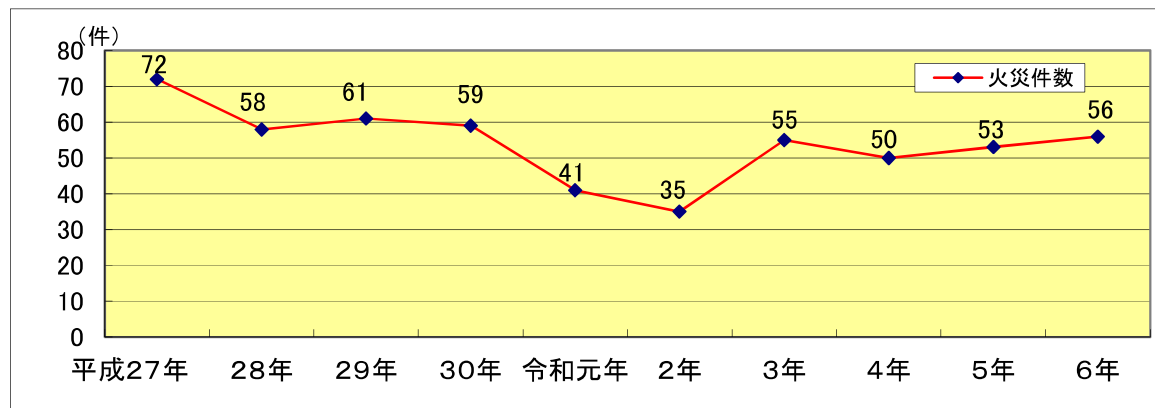
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の251㎡から438㎡増加の689㎡、損害額は前年の2,731万3千円から3,565万5千円増加の6,296万8千円となりました。



火災件数の推移

- 令和6年は56件で、前年より3件の増加となりました。
- 過去10年間の平均は54件です。

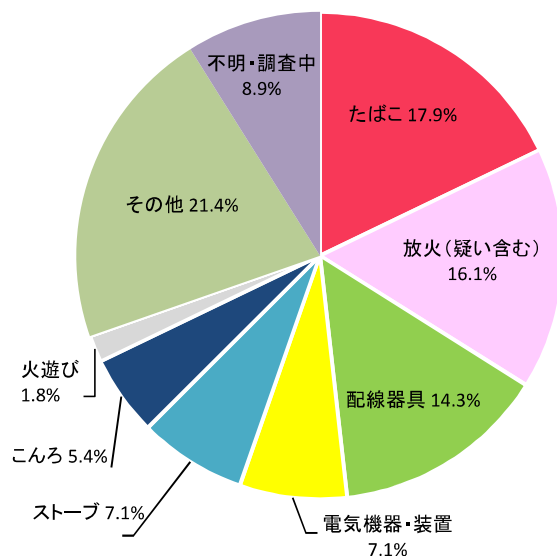


出火原因

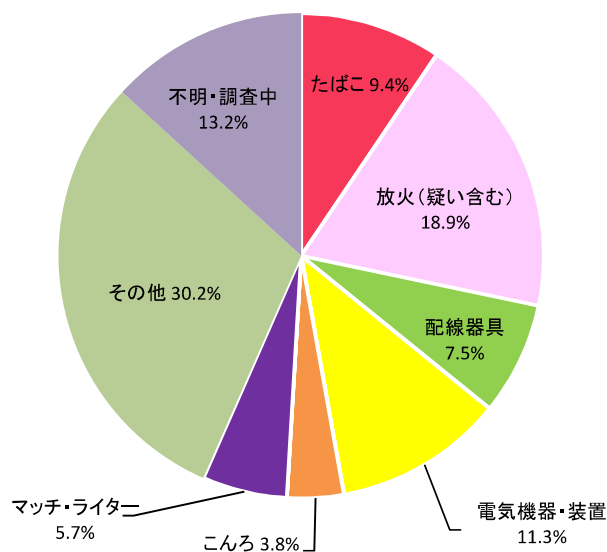
- 主な出火原因をみると、1位は「たばこ」の10件で、前年より5件の増加となりました。2位は「放火(疑い含む)」の9件で、前年より1件減少。3位は「配線器具」が8件で、前年より4件の増加となります。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「たばこ」、「放火(疑い含む)」、「配線器具」となり、合計件数は27件で、割合は48.2%となりました。

区 分	令和6年	令和5年
たばこ	10 件	5 件
放火(疑い含む)	9 件	10 件
配線器具	8 件	4 件
電気機器・装置	4 件	6 件
ストーブ	4 件	0 件
こんろ	3 件	2 件
火遊び	1 件	0 件
マッチ・ライター	0 件	3 件
その他	12 件	16 件
不明・調査中	5 件	7 件
合 計	56 件	53 件

令和6年



令和5年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は21件で、前年の18件から3件の増加となっています。
- 令和6年の出火件数56件に占める住宅火災の割合は、37.5%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「配線器具」、「たばこ」、「ストーブ」となり、その原因が住宅火災全体を占める割合は61.9%となりました。

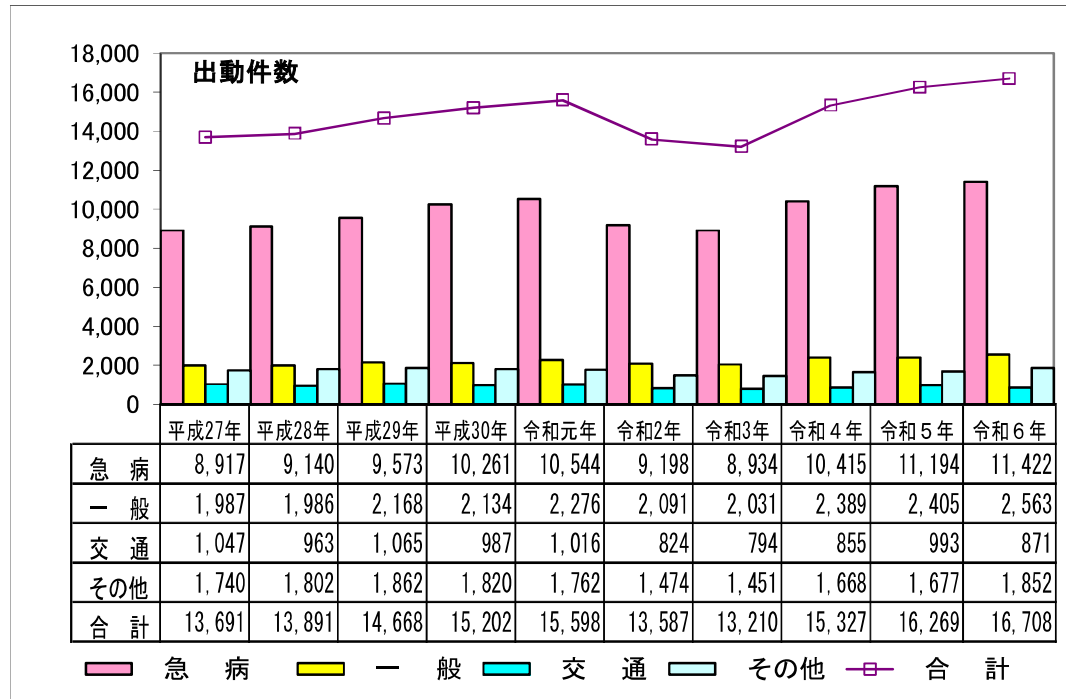
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	配線器具	その他	不明・調査中
一般住宅	令和6年	13	1	1	1			4		3		3
	令和5年	8		1			2		1	2	1	1
併用住宅	令和6年											
	令和5年	1										1
共同住宅	令和6年	8	1	3						2	2	
	令和5年	9	2	2	1						1	3
合 計	令和6年	21	2	4	1			4		5	2	3
	令和5年	18	2	3	1		2		1	2	2	5

令和6年上半期救急概要

令和6年上半期（1月～6月）における救急出動件数は、16,708件（前年16,269件）で439件（2.7%）の増加となり、搬送人員は、14,101人（前年13,485人）で616人（4.6%）の増加となっています。1日平均は、92件（前年90件）で約16分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

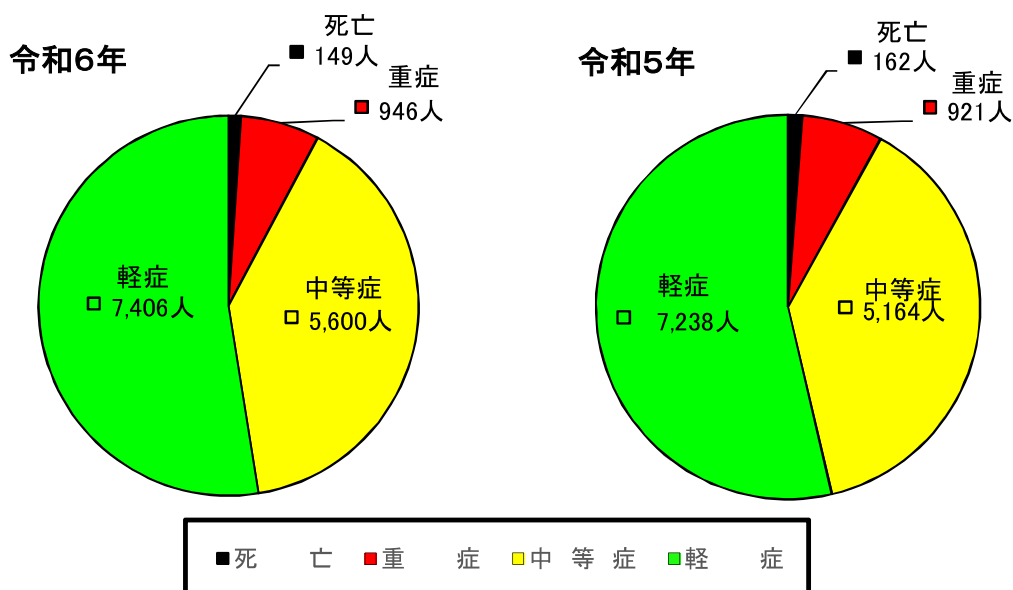
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、令和元年までは毎年増加、令和2年からは2年連続で減少に転じたが、令和4年以降は増加となっています。



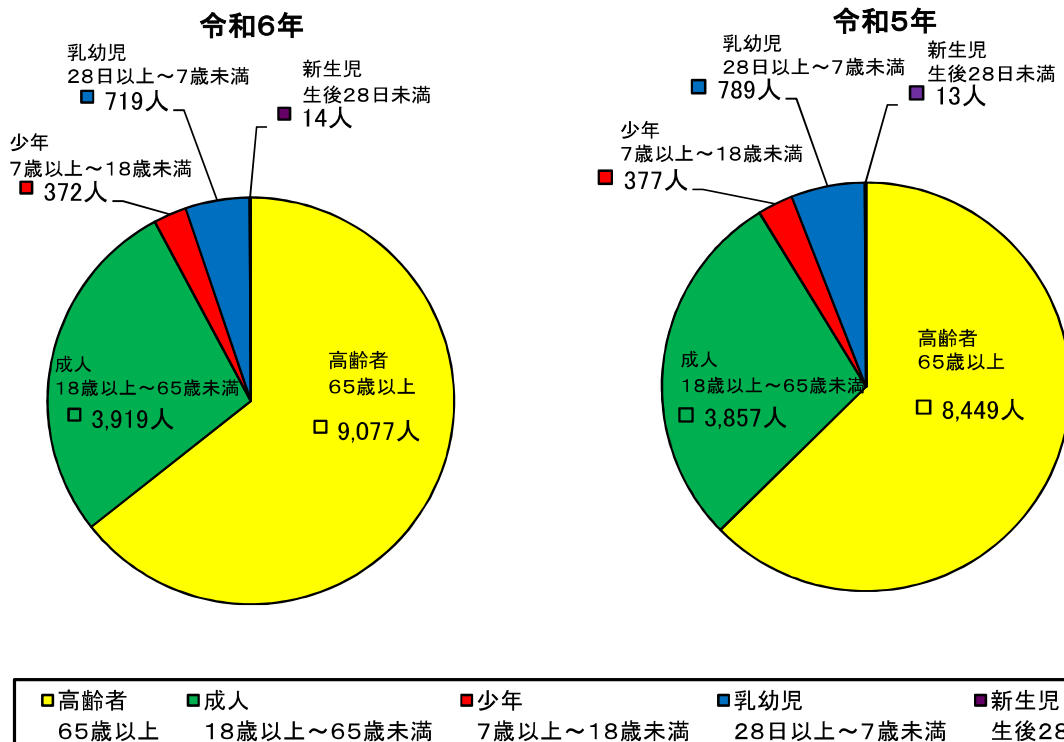
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症7,406人（前年7,238人）で168人（2.3%）の増加、中等症5,600人（前年5,164人）で436人（8.4%）の増加、重症946人（前年921人）で25人（2.7%）の増加、死亡149人（前年162人）で13人（8.0%）の減少となっています。



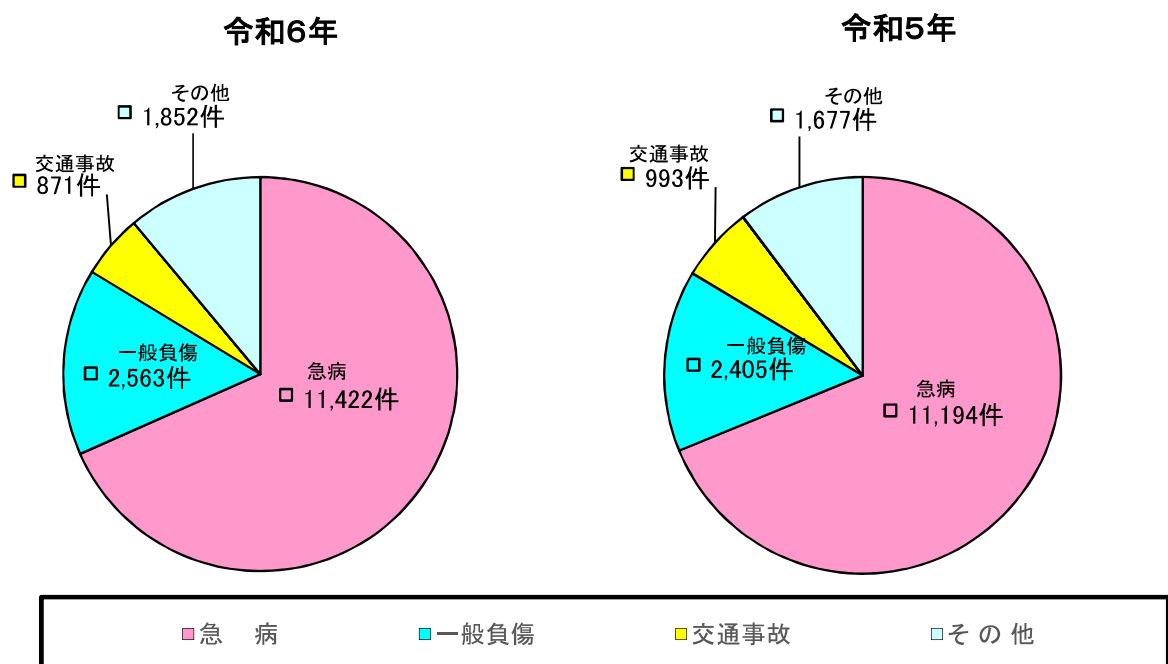
年齢区分別

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が9,077人で最も多く、全体の64.4%を占めており、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順となっています。



事故種別

- 出動件数を事故種別でみると、急病が11,422件で最も多く、全体の68.4%を占めており、以下、一般負傷、交通事故の順となっています。



令和6年上半期救助概要

- 本市の救助体制は、高度救助隊 1 隊、特別救助隊 1 隊、署救助隊 2 隊、水難救助隊 1 隊の計 5 隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は 2 台を有し、市域の南部に 1 台、北部に 1 台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和 6 年上半期の救助件数は 3 7 1 件（前年 3 5 2 件）で 1 9 件（5. 4 %）増加し、出動延べ隊数は、5 8 1 隊（前年 5 6 7 隊）で 1 4 隊（2. 5 %）の増加となっており、事故別にみると建物等による事故が最も多くなっています。
- 年々、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数 3 7 1 件のうち 2 6 8 件（7 2. 2 %）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

